

# ふるさと探訪

(25)

その昔、綾部に温泉の湧き出る村があった。「湯殿」という名の地名が残る。小貝町の旧道を入った集落の中に、民家と肩を並べて小さな薬師堂が建っ

ている。道を挟んですぐそばに、湯が湧き出たとされる池がある。

## 湯殿の伝承

小貝町

郷土史に詳しいお堂近くの村上源一さん(84)によると、この湯殿にはこんな話が残っている。

平安時代、摂政・関白を務めた藤原忠通の娘婿が、綾部の位田の領主を務めていて、ある日オオカミに襲

の焼き物の皿が今も残されている。

このほど出版された「佐賀村誌」には、大化二年(六四六年)、小貝の郡司

兼定という人物がオオカミにかまれて十七日間この湯で治療した。その際、薬師堂に参り、けがの回復を祈願したと紹介されている。

この堂が今の薬師堂なの

たと伝える。「湯殿」は「ふる場」を意味する地名

でもあり、実際、湯殿には昔、何軒かの宿もあったよ

うだが、詳しいことは分からない。村上さんの話では、言い

伝えの仏像は一寸八分と

# 薬師堂そばで温泉湧いた

## 昔は空海作の仏像も祭られて...

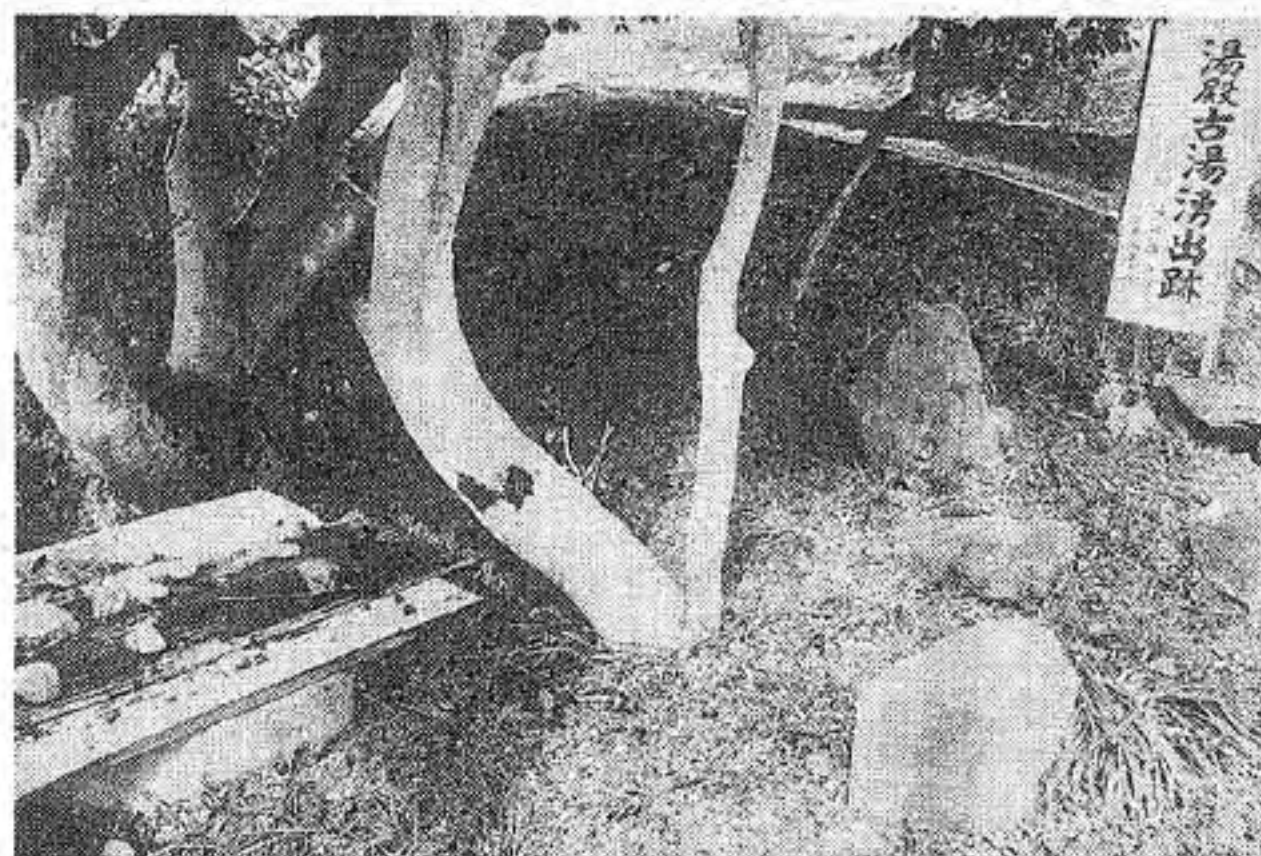
わけてけがをした。湯殿の湯でけがを治すためしばらく滞在することにした。けがが完治した領主は、力の衰えを弓で試そうと、五人張りの強弓(こうきゅう)の弓に矢をたがえ、鉄の扉を射た。すると矢は見事に扉を貫通したという。この領主が泊まったというのが旧家の村上さん宅。村上家には世話になったお礼にと領主から賜った三彩

だという。仏像は一寸八分(約五・四センチ)の黄金の像で、丹後与謝の海中から海女の髪にかかり上がったものと言ひ伝えられてきた。文武天皇の時代に位田の城主が白馬で湯舟に駆け入り霊湯を汚したためか、それ限り湯が出なくなった。以来、里では白馬を飼う人がいなくなったとも。

に遭い、その後、神戸の警察から盗難の仏像が見つかったので検分してほしいと連絡があった。地元の代表二人が警察に出向いたが、本尊の持つ薬壺(やつこ)が右手か、左手かで二人の意見が分かれ、結局、湯殿の仏像であることを実証できずに帰ってきた。

当時の警察の調べでは、仏像は空海作の国宝級のものらしく、持ち主が分からないうちは国に没収するつもり。しかし、没収されたはずの像の所在は今も分からないという。薬師堂には現在、それに代わる仏像が安置されている。堂そのものも過去に火災に遭うなど何度か再建されたよう。昭和初期には畳八畳ほどの広さがあり、茶

さまさまな伝説や言い伝えを残す湯殿。池は今こそだれも使わなくなったが、ここに住む人たちは、昔の恩恵を忘れず「薬師さん」とともに大切に守り続けている。(細見)



昔、湯が湧き出していたという池(左)。今はツバキの大木のもとにコンクリートで囲い、トタンがかぶせてある



お堂にはその昔、金の仏像が祭られ、その像は丹後の海で海女の髪にかかり上がったという伝説が残されている。写真はいずれも小貝町で

の加工場になっていて地元の人

が交代で摘んだ葉を茶にした。今も春と秋の年一回、彼岸になると地元の人たちがごちそうやおやつを持って中にこもり、本尊をお守りする習わしが守り継がれている。

湯が湧き出たとされる池のそ

ばには樹齢数百年のツバキの大木がある。池には今も水が湧き出っていて、どんなに暑い夏でも一度も枯れたことはない。昔は飲み水やふる水などに使い、大切な生活水として住民の暮らしを支えてきた。